



## 農作業メモ

# 農作業事故の防止ポイント

全国の農作業事故の死亡者数は、40年前と比較して、減るどころか微増しています。

平成23年度に農林水産省が全国的な農作業事故の調査を行いました。その内容は、「こうして起こった農作業事故 ～農作業事故の対面調査から～」と題し、報告書が出されています。

この調査は、個々の事例を対面調査により取りまとめたもので、今まで不十分であった事故原因の究明が今回明らかになったものもあります。

この調査結果から、身近な農業機械での事故とその対策について、以下に抜き出しました。

この機会に日頃の農作業を振り返り、今後の事故防止に努めましょう。

### 1 トラクター

(1)トラクターごと横転・転落する事故  
農業機械による死亡事故の中で、約

半数がトラクターの横転・転落によるものです。トラクターの走行中の転倒・転落事故を防ぐためには、①斜面でスピードを出さない、②走行中はブレーキの連結ロックをする、③走行中や斜面では、ロータリー等の作業機を極端に上げない、ことが重要です。

(2)傾斜地などに駐車中、自然に動き出す事故  
傾斜地での停車で実施しなければならぬことは、①サイドブレーキを確実にかける（各メーカー毎にブレーキ操作が異なる）、②作業機は地面に降ろしておく、③エンジンは止め、傾斜方向と逆側にギアを入れておく、などです。特に、サイドブレーキは、ブレーキの引き方により、強くもなり弱くもなるため、注意が必要です。

(3)作業機取り替え中に起きる事故  
特に古い機械では、作業機の取り替

え時に作業機が落下・下敷きになるなど、危険な状態が数多く潜んでいます。この時に注意することは、①見た目に気がつかないが、一時的に引っかかっていた作業機が落下する、②長年作業機を外さなかったために、接続部が錆びてすぐに外れず、何かのきっかけで作業機が落下する、などです。

### 2 コンバイン

(1)籾などの確認のため手を入れて起きる事故  
収穫物などの詰まりが生じた時には、確認しようとして受傷することが多く、非常に危険です。特に、「正常と故障の中間の状態」の時に、「手を入れても大丈夫だろう」の安易な気持ちを生み、事故につながる最大の危険時のようです。とにかく詰まり等の確認には、確実にエンジンを切りましょう。

(2)移動中にコンバインが転倒する事故  
コンバインは籾を満タンにすると、重心が右に傾いたり上昇気味となるなど、不安定な状態となります。こうした危険な状態を回避するために、

①適度な量でタンクから籾を排出する、②運転席からの死角を無くすため車体に印を付ける、などを行い走行中の脱輪・転倒を防ぐことが重要です。

### 3 草刈機

(1)傾斜地の不安定な作業姿勢で起きる事故  
草刈機の作業は、左右に機械を振るので重心は常に移動しており、さらに傾斜地では不安定さに拍車をかけることとなります。こうした場所では、

①足裏が滑らないスパイクを着用する、②傾斜地の途中に小段を設ける、などの抜本的対策も必要です。

(2)エンジンを切らずに、他の作業をして起きる事故  
エンジンを切らずに、安易に立て掛けて置いた草刈機が振動で動き、事故につながるケースもあります。また、回転したままの刃が、他に触れて跳ね返ることもあります。作業の合間には、必ずエンジンを止める習慣を身につけましょう。

(大里農林振興センター農業支援部)